

実践報告 札幌市立あいの里東中学校

(1) 研究内容

研究課題：「性に関する学習の研究」

- 生命を尊重する心、自己を肯定的に受け止め、自他の心と体を大切にする態度を養う。

(2) 実践の内容

【実践①】1 学年 保健体育「性機能の成熟」（9月 29 日）

○ ねらい

思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること、また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となることを理解する。

○ 学習内容

- ・ VTR 資料「小さな生命の詩」を見て、実際の妊娠・出産の様子や周りのサポート、日常の大変さを理解する。
- ・ 男らしい、女らしい体つきの変化についてグループで話し合ったり、その変化の理由について予想したりするなどをして、思春期の体の変化についての理解を深める。

【実践②】1 学年 保健体育「性とどう向き合うか」（10月 13 日）

○ ねらい

- ・ 思春期における性意識の変化と性に関する適切な態度や行動の選択について理解する。
- ・ 性情報にはどのように対処したらよいかを理解する。

○ 学習内容

- ・ VTR 資料「防ごう！性のトラブル」の事例をグループで検証し、性に関する適切な態度や行動の選択について理解を深める。
- ・ いくつかの事例をグループでロールプレイングを行い、現代の様々な性情報に対して、どのように対処していくべきなのかを考える。

【実践③】1 学年 道徳「生命の尊さ」（1月 24 日）

○ ねらい

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

○ 学習内容

- ・ 電車の中で出産をした事例から、妊娠・出産についての理解を深める。
- ・ ゲストティーチャーとして招いた保護者から、妊娠・出産・子育ての楽しさや大変さ、親としての思いを聞いたり、その後のグループワークでの話し合いにより、命の

大切さや生命誕生にはたくさんの人の協力や思いがあることを理解する。

- ・事前アンケート（「性に関する指導の手引」より）の結果から、自分たちの性に対する考え方の現状を知り、正しい知識や行動の仕方を学ぶ。



【実践④】2学年 特活「保健講話～生命誕生」（11月24日）

- ねらい
 - ・自分の性を見つめ、人間としての生き方を考えるきっかけを作る。
 - ・専門職の方からの確かな知識と豊かな経験に基づいた講演を通して、性と生命の尊厳を感じさせ、性行為について正しく理解して行動することの大切さを考える。
- 学習内容
 - ・妊娠～出産までの過程
 - ・生命誕生のしくみ
 - ・妊婦ジャケット体験、赤ちゃん人形抱っこ体験（保健センターから貸し出し）

【実践⑤】3学年 特活「保健講話～性感染症」（7月18日）

- ねらい
 - ・自分の性を見つめ、人間としての生き方を考えるきっかけを作る。
 - ・専門職の方からの確かな知識と豊かな経験に基づいた講演を通して、性と生命の尊厳を感じさせ、性行為について正しく理解して行動することの大切さを考える。
- 学習内容
 - ・妊娠、出産について
 - ・男女の性に対する感じ方の違い
 - ・避妊について
 - ・性感染症について
 - ・性情報への対応

(3) 研究のまとめ

① 成果

- これまで行ってきた保健体育の授業（性機能の成熟・性とう向き合うか：1学年）、および2・3学年の保健講話に加えて、今年度から、道徳「生命の尊さ」を取り入れた。
- これまでの学習によって、妊娠・出産の仕組みなどは理解していても、性に対する正しい理解や行動が十分にできていなかった現状をどう変化させることができるかということを目的に、1学年に取り入れることとした。「性に関する指導の手引」（札幌市教育委員会）の「性に関する意識・実態調査」をもとに、事前に性に対するアンケート調査を実施し、具体的な課題を把握した。また、実際に保護者にゲストティーチャーとして話をしてもらうことで、子どもに対する親としての思いや子どもを産むことの大変さ、また、それ以上の喜びがあるということを感じることができた。事前のアンケートでは、性に対して恥ずかしいから相談できる人はいないと答えていた生徒もいたが、この授業を通して性について考えるということは、「生きる」ということを考えることであり、恥ずかしいことでも嫌なことでもないと考えを変化させることができた。また、授業の様子を学級だよりとして発行し、学級だより・授業の指導案・ワークシートを同封し、家庭に持ち帰り、家庭で命について考える機会を提供することができた。
- 2学年では、3学年に家庭科で行う保育実習との兼ね合いも考え、赤ちゃん抱っこ体験や妊婦体験を中心に、助産師による講話を取り入れ、生命誕生や命の大切さについての理解を深めた。体験的な学習を取り入れたことにより、母親としての苦労や産まれてくる命の大切さを実感することができた。
- 3学年では、性感染症を中心とした助産師による講話を行った。性行為についての正しい理解を深め、長期休業中に間違った行動をしないよう、時期についても配慮をした。自分の行動に責任をもつことの大切さを感じられた講話であった。

② 課題

- 今回、身近な保護者を招いての授業は、生徒にとっても、保護者にとっても生命の尊さについて考える大変有意義なものとなった。保護者の協力なしにはできないことであるが、今年度の取組を生かして、動画を取り入れたり、手紙を書いてもらうなど、何らかの形で1学年で実施していきたいと考える。
- 性について、小学校での取組を調査した結果、段階を経て細かに指導している様子があった。思春期における性に関する教育は、中学校では、より踏み込んだ指導内容が必要になってくるため、体験学習を含めた計画的な実践を行っていきたい。

- 2、3学年で行っている講師による講話は、札幌市保健福祉局の「思春期ヘルスケア事業」を活用しているため、抽選によって決定される。そのため、抽選に外れた場合の対応を考え、臨機応変に行っていく必要がある。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 性に関しての間違った考えや思い（いやらしい・きたない・恥ずかしいなど）による間違った行動を防ぐために、根底にある「生きる」ことの意味や大切さ、「性」＝「生」という考えを継続的に計画的に指導していくことが必要である。
- 思春期においては、心が自立しようとし始めるため、特に家庭での会話が少なくなることも考えられる。性に関しては、相談相手が親から友達や先輩へと変化するなど、正確な情報が得づらい環境となってくることも考えられるため、正しい性情報を学び、責任ある行動を行う大切さを伝えていく必要がある。
- 保健体育の教科や道徳を通して学習を進めていくことはもちろん、日ごろから、男女それぞれを尊重する雰囲気づくりや言動を心がけていけるよう努めていくことが大切である。

